



令和4年の「児童生徒の自殺」

令和5年3月30日(木)
自殺総合対策の推進に関する有識者会議

いのち支える自殺対策推進センター
厚生労働省

高校生の自殺者数、自殺死亡率

令和4年の児童生徒（小中高生）の自殺者数のうち、高校生が68.9%を占めた。性別を問わず、自殺者数は「高校生（全日制）」が多く、自殺死亡率は「高校生（定時制・通信制）」が高かった。特に「女子高生（定時制・通信制）」の自殺死亡率が高く「女子高生（全日制）」の4.6倍、全国の自殺者（全世代）の1.9倍に上った。自殺者数では、「男子高生（全日制）」が最も多く、高校生全体の45.5%を占めた。

図1.高校生の自殺者数

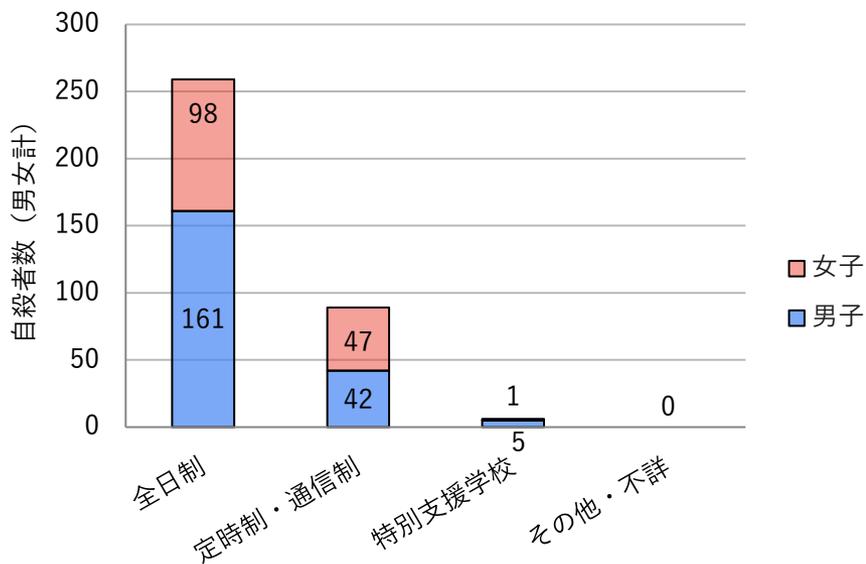


表1.高校生の自殺死亡率

	自殺者数	学生数	自殺死亡率 (/10万)
全日制	259	2,933,199	8.8
定時制・通信制	89	308,123	28.9
特別支援学校	6	65,355	9.2

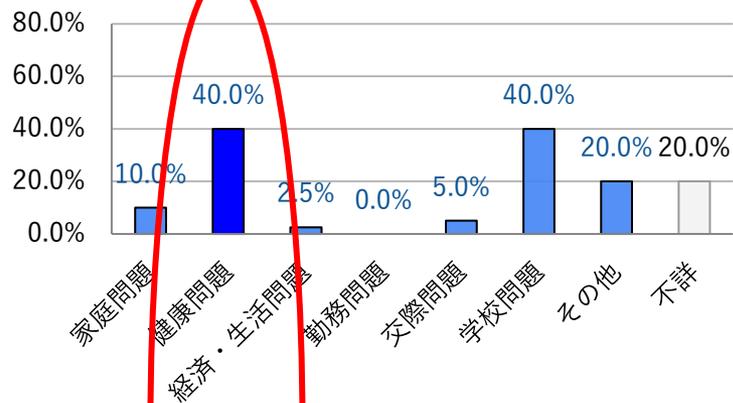
	自殺者数	学生数	自殺死亡率
男子			
全日制	161	1,491,676	10.8
定時制・通信制	42	156,817	26.8
特別支援学校	5	42,466	11.8
女子			
全日制	98	1,441,523	6.8
定時制・通信制	47	151,306	31.1
特別支援学校	1	22,889	4.4

※令和3年の自殺死亡率（全世代）は、総数が16.8、男性が22.9、女性が11.0

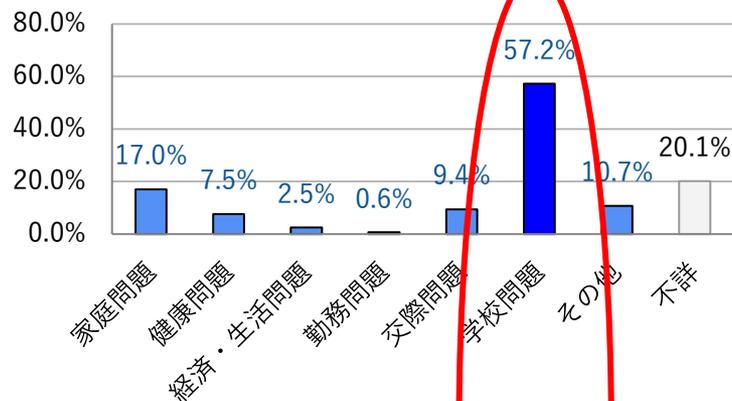
高校生の自殺の原因・動機（大分類）

注）原因・動機は自殺者一人につき4つまで計上可能としているため、大分類の和は100%とならない。割合は、各大分類に該当した自殺者数を、高校種別・男女別の自殺者数(n)で割って算出した。なお、ここでは同一大分類下の小分類の2つ以上に当てはまるとされた場合でも、大分類上は1として集計している。

定時制・通信制男子(n = 40)



全日制男子(n = 159)



定時制・通信制女子(n = 46)



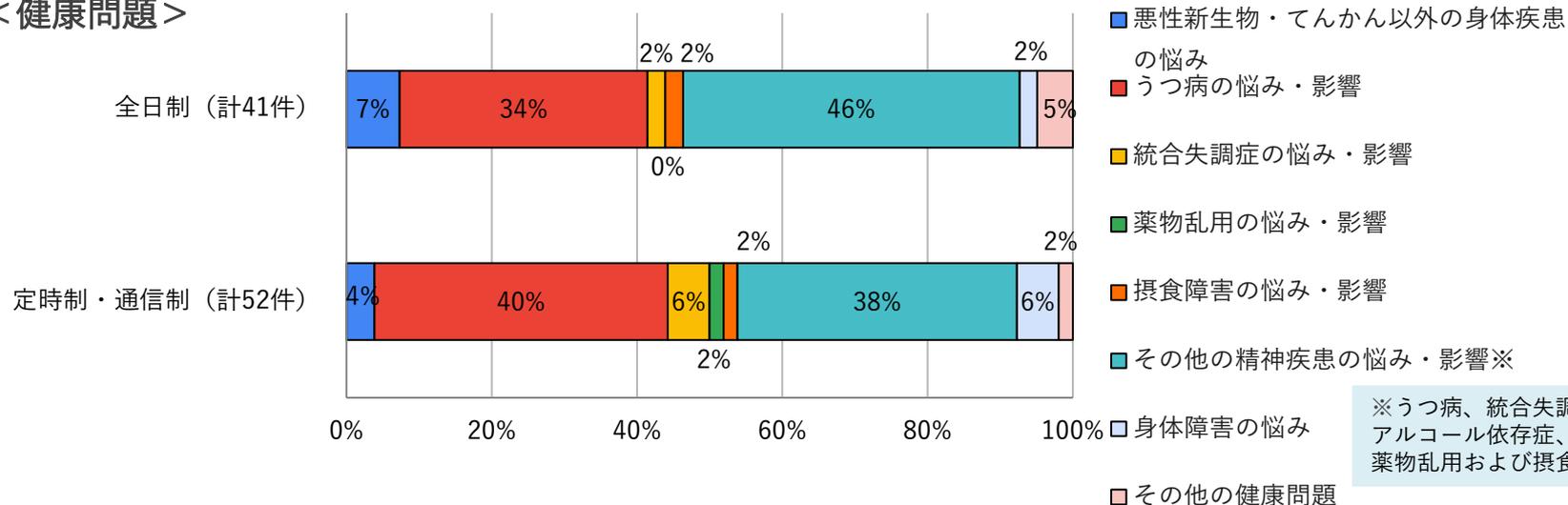
全日制女子(n = 92)



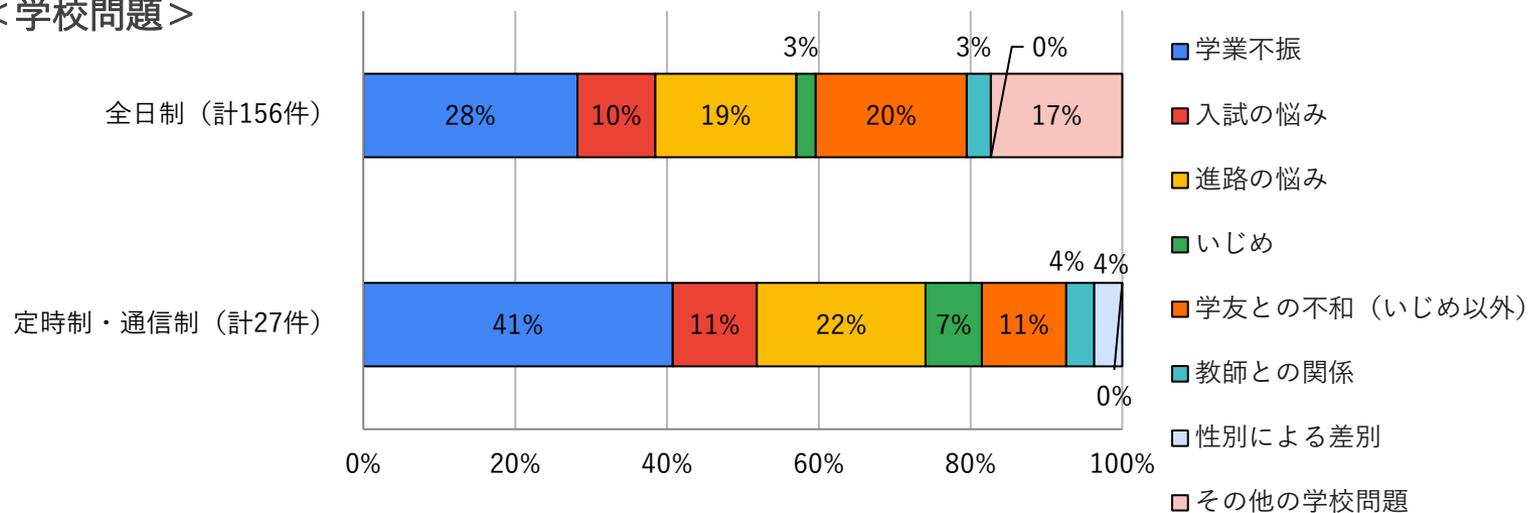
高校生の自殺の原因・動機「健康問題」「学校問題」の内訳

注) 原因・動機は自殺者一人につき4つまで計上可能としているため、原因・動機別の和と全体の自殺者数は必ずしも一致しない。本グラフでは、小分類×人数を100%とした。

<健康問題>



<学校問題>



高校生の自傷行為歴と自殺未遂歴の有無

「高校生（定時制・通信制）」のうち、自殺未遂歴「あり」の割合は38%で、全国の自殺者（全世代）の1.9倍に上った。自傷行為歴と自殺未遂歴、あるいはそのいずれかが「あり」は、「高校生（定時制・通信制）」において48%で、「高校生（全日制）」の2.2倍に上った。



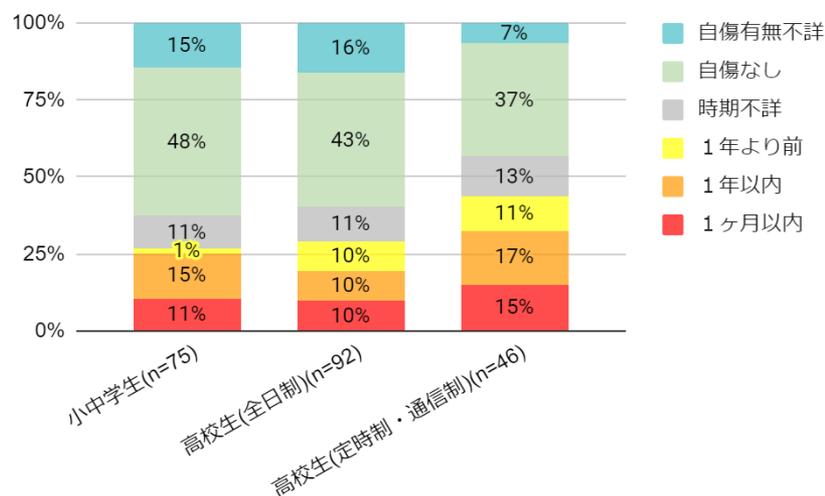
※令和4年の自殺者全体（暫定値）における「自殺未遂歴あり」の割合は、総数（男女計）では19.5%、男性では14.9%、女性では29.0%となっている。

女子の自傷行為と自殺未遂の時期

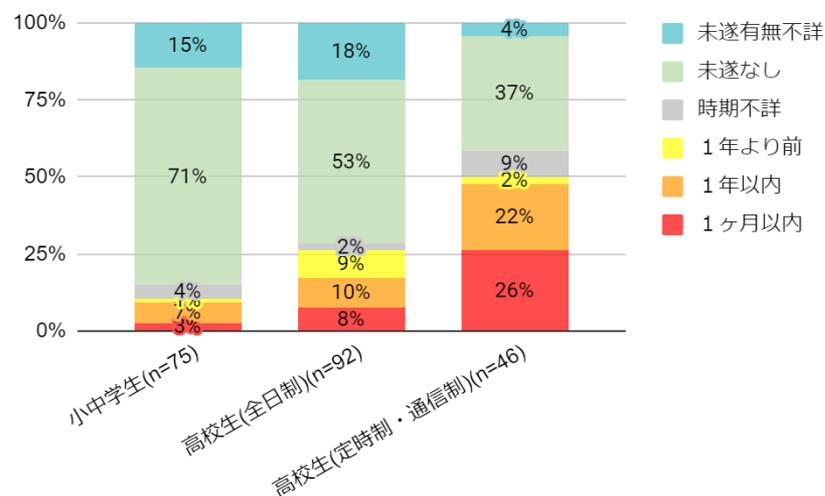
「女子高生（定時制・通信制）」の26%は、自殺で亡くなる「1ヶ月以内に自殺未遂」をしており、自殺未遂歴「あり」の割合が半数を占めた。

「女子小中学生」の11%は、自殺で亡くなる「1ヶ月以内に自傷行為」をしていた。

自傷行為の時期（女子）



自殺未遂の時期（女子）



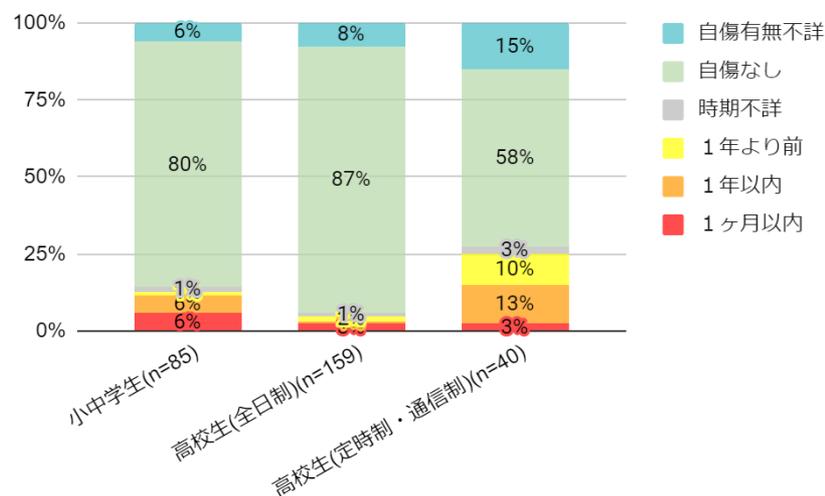
※令和4年の自殺者全体（暫定値）における「自殺未遂歴あり」の割合は、総数（男女計）では19.5%、男性では14.9%、女性では29.0%となっている。

資料：警察庁自殺統計原票データ（令和4年の暫定値：令和5年2月3日現在）より「いのち支える自殺対策推進センター」作成

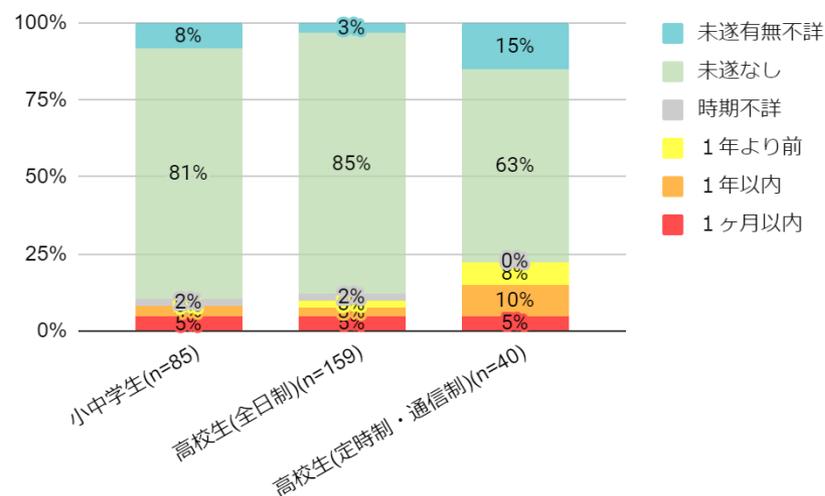
男子の自傷行為と自殺未遂の時期

男子は女子と比較して、「自傷行為歴」と「自殺未遂歴」のいずれにおいても「あり」の割合が低かった。

自傷行為の時期（男子）



自殺未遂の時期（男子）



※令和4年の自殺者全体（暫定値）における「自殺未遂歴あり」の割合は、総数（男女計）では19.5%、男性では14.9%、女性では29.0%となっている。

資料：警察庁自殺統計原票データ（令和4年の暫定値：令和5年2月3日現在）より「いのち支える自殺対策推進センター」作成

児童生徒の自殺の時間帯

児童生徒が自殺で亡くなる時間帯を集計したところ、比較的、放課後の時間帯（14～19時）に多いことが分かった。ただし、学期中と休暇中においては特徴が異なっている可能性もあり、更に掘り下げた分析が必要である。

